

中学校・道徳の内容項目の解説

愛国心

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	愛国心

●解説

全体的な理解	<p>内容項目(8)の「地域社会」「郷土」を一まわり広げたとき、この項目の「国家」や「国」になる。そして前項の「地域社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め」る心を、国家という広がりであれば、「国を愛し」「国家の発展に努め」「優れた伝統の継承」に努める心につながっていく。</p> <p>我が国について客観的に広い視野から認識を深めるとともに、我が国固有の優れた伝統と文化などそのよさについて理解を深め、その価値を継承し新たな文化を創造していこうとする態度の育成を図ることが大切である。この項目は、道徳教育の目標に示された「個性豊かな文化の創造」や「主体性のある日本人」の育成とも密接な関係にあり、国際社会の中で独自性をもちながら世界に貢献できる国家の発展に努める日本人として、主体的に生きることの自覚が求められている。</p>
発達的な観点	<p>中学生の時期になると、日本の国土や歴史に対する理解が深まり、伝統と文化に対しても一層関心をもつようになる。そこで、この関心をさらに高め、国を愛する心と国家の発展に寄与しようとする態度を育成することが大切となる。ここで、国家の発展に努めることは、国民全体の幸福と国としてのよりよい在り方を願ってその増進に向けて努力することに他ならない。</p>
指導の着眼点	<p>指導に当たっては、国を愛することは、偏狭で排他的な自国賛美ではなく、国際社会の一員としての自覚と責任をもって、国際社会に寄与しようとする点につながっている点に留意する必要がある。そのためにも、「国を愛」することと、次の項目の「国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」こととは切り離せない関係にあることに配慮した指導が大切である。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	郷土愛
中学年	(6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。	愛国心・国際理解
高学年	(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	郷土愛・愛国心